

選択領域B「英語教師力ブラッシュアップ—英語科教育の理論と実践」講習概要・時間割

1. 日 時 : 平成29年8月3日(木)～8月4日(金) 10:00～17:20 (休憩時間を含む)

2. 募集人数 : 10名

3. 講習内容

英語教師力ブラッシュアップのために、英語学、英語発音学、英語コミュニケーション、言語評価論、英語指導技術、またPCを使った英語教材開発や授業で使える実践的技術などを教室での具体的指導を前提に講義し、一部実践を試みる。また各講義・実践をととして英語教育の改善を考えたい。

4. 時間割等(予定)

【8月3日(木)】

時限	講習題目	内 容	担当講師
9:30～10:00	【 受 付 】		
1 時限目 10:00～11:20	新学習指導要領を考えるⅠ	2012年に中学校で、2013年に高校で学習指導要領が改訂された。今回の改訂をどう考えるかを歴史的に分析する中で受講者と一緒に考えて行きたい。Ⅰでは主に理論的考察を中心に行いたい。	保坂 芳男 外国語学部教授
2 時限目 11:30～12:50	新学習指導要領を考えるⅡ	中学校、高校の新学習指導要領の中で注目されている「言語活動の充実」と「授業は英語で行なうことを基本とする」を具体的にどのように実践していけば良いのか、講師の例を紹介するとともに受講者との交流も行いたい。Ⅱでは主に実践交流に重点を置きたい。	
12:50～13:40	【 昼 休 み 】		
3 時限目 13:40～15:00	英語教授法の歴史Ⅰ：日本の英語教育への影響を考える	古くはGrammar-Translation Methodから、20世紀のSituational Language Teaching、The Audiolingual Method、Communicative Language Teachingに至るまで、世界の第2言語・外国語教授法の歴史を概観するとともに、現在も日本の英語教育に残る各教授法の影響を皆さまとともに考察していきます。	狩野 紀子 外国語学部教授
4 時限目 15:10～16:30	英語教授法の歴史Ⅱ：近年の教授法の実践可能性を考える	近年注目されているContent-Based InstructionやTask-Based Instruction、the Lexical Approachなどを紹介するとともに、関連するContent and Language Integrated Learning (CLIL)やthe Common European Framework of Reference (CEFR)、corpusなどの日本の教育現場での実行可能性や利用法について考えていきます。	
5 時限目 16:40～17:20	修了試験（筆記試験）		

【8月4日(金)】

時限	講習題目	内容	担当講師
9:30～10:00	【 受 付 】		
1 時限目 10:00～11:30	communication I	Designing tasks for junior and senior high school oral communication classes. Working towards getting students to have real conversations. In these two seminars, we shall be looking at English speaking activities suitable for junior and senior high school classes. In seminar I, we shall be looking at the background and theory of pairwork and information gap activities with reference to work done by David Nunan and others who have contributed to and active in the field of Communicative Language Teaching.	アンドリュー・マーティン 外国語学部特任教授
2 時限目 11:40～13:10	communication II	In seminar II, we shall be looking at model materials and trying two types of pair work activities. 1. TTD split readings ;Students in pairs are responsible for :- T - Teaching a short text to their partner. T- Testing understanding with true / false or W/H, yes / no questions. D - Discussing the content. 2. Topic Talking Students develop their communication skills by learning to discuss topics that are related to their daily life and interests, such as music, sport, food and so on. These two core activities are based on materials that can be easily produced by teachers and in the case of Topic Talking, can be produced by students too. Both should be especially suitable for team-taught classes and can be adapted for practicing specific sentence patterns and vocabulary for any level.	
13:10～14:00	【 昼 休 み 】		
3 時限目 14:00～15:30	英語音声指導Ⅰ（英語の母音と子音）	Daniel Jonesの基本母音を出発点にして、英語の母音素20個、子音素24個を音声記号で記述できるようにします。教材は、渡辺が 松坂ヒロシ『英語音声学入門』をもとに独自に作成したものを用います。88個の英文を音声記号に書き直してもらうことで、英語の全ての母音・子音を区別できることを目指します。アメリカはもちろん、イギリス、オーストラリア等の幅広い英語に対応できる出発点を提供したいと思っています。	渡辺 勉 商学部教授
4 時限目 15:40～17:10	英語音声指導Ⅱ（英語のイントネーション）	英語の母音や子音の発音が完璧だとしても日本人の話す英語が通じにくいことがあります。その理由は、リズムとイントネーションに日本語訛りが残っているためだと考えられます。J.C.Wells（ロンドン大学名誉教授）著、長瀬慶来監訳『英語のイントネーション』を教材として、英語のイントネーションの基本である下降調イントネーション、上昇調イントネーション、下降上昇調イントネーションに習熟することを目指します。	

※ 各時限の担当講師・内容は変更となる場合があります。